教育学部　教授
博士（教育学）　手打　明敏

本学学生は、教員採用一次試験に合格したものの、面接中心の二次試験で不合格となっている傾向がみられることから、面接対策の充実を図るために本研修は企画された。

中島総長は、本研修に当たり面接授業担当者であるわれわれ教員に対して、教員の役割は学生をして採用者である教育委員会の面接担当者が納得する解答ができるよう導いてやることであると強調された。そのための効果ある対策授業として、以下のことに留意する必要があると指摘された。

①　面接対策授業で使用する教科書に掲載されている問題事例の解答ポイント（基本）を暗記する。

②　暗記した解答の基本をベースにして体験等にもとづく自己の見解を加味して解答する。自己流で自己の見解を述べるだけでは面接官を納得させることは難しいのである。

本研修では、「あなたはなぜ教師を希望しているのかですか。理由を聞かせてください。」

と「あなたが教育実習で得たものは何ですか」2 問に取り組んだ。この 2 問について教員の解答発表について、教員は子どもからも学び成長していくという観点をもつ必要がある、という中島総長のコメントは大事な指摘であると思った。つまり、「教えるは習うのはじめ」というように、教員は児童・生徒に教えるだけではなく、教えながら児童・生徒からも学んで成長していくのである。そのためには、教室で学ぶ児童・生徒の背後にある家庭環境や彼らを取り巻く地域の状況などにも理解して児童・生徒を指導することが求められるのである。

中島総長の「子どもから学び成長する教員」という教職理解は、アメリカ留学時代に学んだということであるが、不易な教員像であると思う。本研修で扱った面接事例の解答では、教員は、子どもに一方的に教えるだけではなく、教えながら教員自身も子どもから学び成長することができる魅力的な仕事である、という視点をもって述べる必要がある。